

## Growing

カイチのアルバイト講師の多くが卒業生  
講師としてだけでなく先輩として  
伝えられる言葉があります。

高木 秀章(塾長)

「ここの答えわかるかな? 高木君」諸口教室の谷口先生が、アルバイト講師の授業発表会の冒頭から、初対面、しかも審査委員長の私に突然質問してきました。彼の大胆不敵な攻撃に、模擬授業を受けている先生達から笑いが起き、そこから模擬授業は見事に彼のペースで進みました。カイチでは年に2回授業発表会を行い、先生達の指導技術と共に研修担当の先生達の育成技術を競います。

カイチのアルバイト講師の大半が元カイチ生。彼らの多くは自分が学んだ教室で指導に当たります。研修担当の先生の多くは、自分達が習っていた教室の先生達。もちろん先生もカイチで習っていた自分の教え子が、教壇に立つのですから、熱の入りが違います。連日、授業後に練習を重ねこの日を迎えます。模擬授業を見せてもらって感心したのは、とにかく、彼らの上達が早い。カイチに来て4ヶ月程度で堂々と授業を行い、何より楽しそうに授業をする姿が魅力的です。

先日、今福のカイチ個別担当の先生に「(生徒の)~さんの様子はどう」と聞くと、「実はこの子には小テストはさせていません。勉強が苦手だから、無理をすると勉強が嫌になります。分からないところを丁寧に教えて、出来たことを褒めてあげるようにしています。」と的確な答えが返ってきました。「へーやるなあ」と言うと、「結構やりますよ」と遅い返事。

前までは、生徒でまだまだ子供と思っていたのに、生徒達のことを考え、指導できるようになっている。彼らの飲み込みの良さや、成長の早さにはただ驚くばかりです。

彼らは、塾生の皆さんにとって、勉強をしてくれる講師であると同時に、カイチの先輩です。もしかすると、数年後の自分の姿がそこにあるかもしれません。私は生徒達と同じように、カイチで学び、高校・大学受験を乗り越えた彼らだからこそ、生徒達に伝えられることがあると考えています。

このGrowingの最後のコラムに掲載した塩崎先生は今月末からアメリカに1年間留学します。高校入試の時に自分には実力が無い、いくら勉強しても不安で仕方がないと言っていた彼女が、一人でアメリカに行き、自分の可能性を試したいという。そして、カイチ生の皆に、「好きなことだけでなく、嫌いなことにも挑戦して欲しい。大切なことは知識ではなく、経験から得られる人間としての力」だと話しています。

それは生徒達に年齢的にも近い彼女だからこそ、よりリアルに伝えられる言葉だと私は思います。

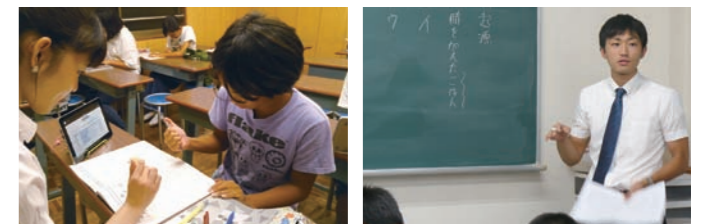
先日も、突然私に会いに来た生徒がいました。何事かと思い、話を聞くと突然「どうやったら成功できるのか」と質問されました。「先生は成功していないから分からない。」「僕が成功について直接聞ける大人は先生だけ。だから聞きに来ました。」この子はこんなに強かったのか。こんな真っ直ぐなところがあったのかと驚きました。今の若者は、お給料以上に、休暇の多さや就業時間などワークライフバランスにこだわり、働く気力がないと言われています。しかし、私が見る限り、彼らはそのように見えません。

彼らは、私達親世代が歩んできたレールに乗っているだけでは、幸せに出来ないと感じているのかも知れません。少なくとも、私が学生の時は、将来なんて考えていませんでした。自分の力で行ける学校に進学し、その選択肢の中で就職できるところに就職することしか考えていませんでした。しかし、今の子供達は、分からないなりに将来を考え、進路を選ぼうとしています。それが時代の要請でもあります。確実に若者は変化しています。

そして、そんな彼らも、ついこの間まで、定期テストや模擬テストの点数に一喜一憂し、クラブや恋愛で悩み、たまには馬鹿なことをして叱られる普通の学生でした。今、塾生の皆さんが日常として過ごしている学生生活は、人生において大切な基礎を学ぶ、長い人生において、非日常の時間です。当たり前と思える今は、決して当たり前ではないのです。大いに学び、大いに遊び、大いに悩み、そして「今」を大いに楽しんでください。大人になり、社会に出るその基礎は、まさに「今」作られています。

私達、大人はつつい「あの時、もっと勉強していたら」と言ってしまう。皆さんも、いくら努力を重ね立派になったとしても、きっと今の私達と同じことを言ってしまうと思います。それは、「若さ」があまりにも、眩しくて可能性に満ちているからです。大切な「今」は二度と戻ってきません。そのような意味では、先生自身も、可能性に満ちた卒業生や生徒達と触れられる大切な今を生きているのかも知れません。

2学期が始まり、受験生の皆さんはいよいよ、追い込みの時期に入ります。皆さんにとって受験校が決まる重要なテストが続き、プレッシャーがかかることと思いますが、高校受験は中学3年生の今しか出来ない、一生に一度の経験です。どうか、自分と誠実に向き合い、悔いのないようにしてください。その経験が、必ず皆さんの将来につながっていきます。私達も最後まで皆さんを、精一杯サポートします。



## COLUMN: 先生紹介 ▶ 塩崎 弘子(今福教室)

皆さんには、何でも挑戦して欲しい。  
もしかしたら、それがターニングポイントになるかもしれない。

今福教室の集団クラスで中1生と中2生の英語を教えます塩崎弘子です。

私事ですが、8/10で皆さんとさよならすることになりました。私は約1年間、アメリカ

のノースキャロライナ州の大学に留学に行きます。そこで今回、なぜ私は英語が好きになったのか?という

ことについて書こうと思います。

私は高校一年生の時、オーストラリア研修という約2週間のプログラムに参加しました。それは私にとっての初海外で、毎日が刺激的でした。聞こえてくるのはもちろん全て英語、友達の肌や目の色

が違う、食べ物・飲み物の味は違うし量も違う。夜中に「ヒロコ!ステーキ食べる?!」と聞かれたこともあり。オーストラリアの土地は広大なので、私のホストファミリーが住む住宅周辺の家は全て平屋で統一されており庭には特大トランポリンがあるほど大きな家でした。ある日、トランポリンに立って、ふと上を見上げたことがありました。これこそ、私にとってのターニングポイントでした。見上げた先にはどこまでもどこまでも続く青い空がありました。視界を遮る建物はなく、とても美しく、ただただ広大でした。この時に、世界ってこんなにも広いのかと衝撃を受け、日本にだけじゃあダメだと感じました。この雷に打たれたような感覚は今でも覚えています。これがきっかけで、私は英語を勉強しようと決めました。

あの時、研修に参加していなかったら?空を見上げていなかったら?もしかすると、私は皆さんに英語を教えていなかったかもしれません。このコラムを通して伝えたいことは、皆さんには何でも挑戦してほしいということです。興味のあることはもちろん、興味のないことでも、やってみると実は新しい発見があるかもしれません。選択肢を与えられた時はぜひ、「YES!」と答えて、挑戦してみてください。もしかしたらそれがターニングポイントになるかもしれません。

最後に、私は授業で英語だけを教えてきたつもりはありません。勉強は頭の知識だけではなく、人間力も養ってください。皆さんに厳しく接したこともありました。しかし皆さんは私の目を見て、しっかり話を聞いてくれていたので、私の言いたかったことが伝わっていると信じています。だからここには書きません。カイチを去るのは本当に寂しいです。皆さんの成長をずっとそばで見えていたかったです。でも、この留学は私の夢でした。このチャンスは無駄にせず、皆さんがびっくりするくらい成長して帰ってきます。また絶対会いましょうね!今までありがとうございました!

おおよその目処を立てる力は、実は数学を学ぶ上で大切な力です。結局机を3つ並べて、「机3つより少し長いくらい」を利用することになり、全員うまく切り出すことに成功しました。みんなで相談して、良い方法を工夫する経験をできるのはいいことですよね。

さて、実験の結果ですが、今年も無事に全員のコイルモーターがくるくる回り、大盛り上がりでした。私は嬉しさと同時にほっとしました。今年も「奇跡の1日」となりましたが、生徒達は「もう奇跡違うんちゃう?」とけろっと口にしていました。

思いを込めて動けば、実現するかどうかは別にして、実現に向けての大きな一歩となります。皆さんも行動を起こすときは「思いを込めて」スタートしましょう。

福井の  
ちょっと  
TEACHER'S VOICE 福井 幸司(関目教室)

## イイ話

## 思いを込めて目標を実現しよう

「奇跡を待ちはないよ それを起こしに行くんだろう」今年の夏の高校野球大会のテーマソングになっていた「虹」という曲の歌詞の一部です。

私がカイチの講師になって3回目の夏期講習が終わりました。小学生はお盆休み前の授業で理科実験を行いました。私は今年も小5の「磁界とコイルモーター」を担当しましたが、入社当初、先輩講師から「これはほとんど成功しない難しい実験」と聞かされていました。ところが、昨年の夏、先輩たちから「奇跡」と呼ばれた1日が訪れます! 何と全員のコイルモーターがくるくる回り、大歓喜! そして今年。そんなにうまくいくことはないと思いつつも、昨年の歓喜を再現してあげたいという思いで、当日を迎えました。実験の前に「今日の実験はほとんどうまくいかない難しいと言われている実験だから、できなくても落ち込むことはないよ。でも昨年は全員成功したんだ。奇跡が起こったと言われた。今年もみんなで奇跡を起こそう!」と話し、その時に

冒頭の歌詞を紹介しました(実験は8月9日だったので、タイムリーなネタでした)。

実験がスタートすると、生徒達は特に気負うこともなく、楽しそうに作業に没頭しました。巻かれたエナメル線から必要な長さだけを切り出す作業があるのですが、最初は25cmを切り出すために、ちょうどテキストの縦の長さと同じという指示があったので、それに合わせて切りました。

しかし、2mを切り出すときは大変! 雑に引っ張ってしまい、絡まったエナメル線と格闘したり、押さえていたはずの端がいつの間にかどこかへ行ってしまったりと、とても苦勞をしていました。「テキストの縦の長さ8個分」と言われても、その作業は困難でした。すると、生徒達はいろいろと工夫をし始めます。自分達の身長と比べ、「めっちゃ長くなるやん!」と2mの長さを少し実感し、「先生の頭の上にテキストをのせるとちょうどいいんちゃう?」と言い出す生徒もいました。正確ではないですが、

- 9月中旬以降に中間模擬テストを実施します。
  - 小学部診断テストを9月27日(水)に実施します。
  - 夏期講習最終日に受験した模擬試験結果の返却は9月下旬~10月上旬を予定しております。
  - 志望校レベル別受験対策講座(中3)の第2タームを9月2日(土)、9日(土)、16日(土)、30日(土)の13:00~16:00で実施します。10月の実力テストに向け頑張りましょう。
- ※中間テスト対策のため、日程を変更する場合がございます。ご了承ください。

## カイチからのお知らせ

# Focus

## CLASSROOM REPORT 教室レポート



### 今福教室の夏期講習 皆さんお疲れ様でした。

川西 久志 (今福教室)

猛暑もようやく一段落しましたが、季節の変わり目は特に体調を崩しやすいのでご注意ください。特に受験生の皆さんは最も大事な時期に入りましたので十分気を付けましょう。今回は今福教室学習部の夏期講習の様子と取り組みについてご紹介します。



小学部では自分で問題を解き進み、間違った問題は弱点対策プリントで類似問題を何度も解くフリーラーニング方式というものをしています。自分のペースで進めていける方式なので、友達と競い合いながら、集中してどんどん終わらせました。早い生徒達は用意したプリントをすべて消化し、模試過去問を演習しました。この時間で彼らが解いた問題数は大問数で150題以上。問題集約1冊分の問題をフリーラーニングの時間だけで演習したことになります。皆さんお疲れ様でした。



小学部の夏期講習で最も盛り上がるのが理科実験です。理科実験は、理科が苦手な生徒達が少しでも理科に興味を持てるように、また中学生の学習に繋がるように、中学校の履修範囲からテーマを選ぶようにしています。私が担当したのは4年生の「空気砲を作る」という実験ですが、空気砲で一直線に並んだろうそくを消す実験が特に盛り上がり、生徒達の好奇心に満ちた目の輝きが印象的でした。また、手先がとても器用だったり、上手いかな人の手伝いをさとしてあげたり、普段の授業では見られない生徒達の横顔を見れることも理科実験の良さだと感じました。

クラブ活動に入部している中学部の生徒達にとって夏休みは本当に忙しい時期だったと思います。多くの生徒達が、クラブやご家庭の用事で、遅刻・欠席した分の補習を居残りや、別の日程に塾に来て消化し、頑張りました。そんな忙しい、夏期講習の最中、中学1年生で留学でカイチを離れることになった塩崎先生に、アルバムを作ってくれた生徒がいました。塩崎先生はアルバムを見ながら事務室で「これは嬉しいです。一生の宝物になります。」と感動していました。横で先生も、うらやましいなと思ながらほっこりした気持ちになりました。



クラブ活動を引退した受験生達は、塾が午前中空いているときは朝から来て、自習を頑張りました。先生が小学部を見ている時間に空き教室を見つけ、タブレットを準備して、いざ自習開始。9:00~11:00までやって、お昼ご飯を食べに帰り、夏期講習を、12:00~16:20まで受講し、更に18:00まで質疑や自習。それから夕食のため帰宅し、19:00~22:30までまた自習をします。

これだけやっても受験生達は、帰る間際に友達と雑談をしたり、先生達に自分がどれだけ頑張ったかを話してきたり、まだまだ元気。やはり若い!こんなにバイタリティーのある彼らなら、きっと大人になっても、強く逞しく生きていくことと思います。受験生の皆さんは、いよいよ勝負の2学期。私達講師も、そんな生徒達を、合格まで精一杯サポートしていきます。



# Education

## KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



### Challenge! ~I can do it !! 「自分がんばった」と言える皆は素晴らしい

マナロ 恭子 (トーキングキッズ担当)

カイチで初めてのサマースクールへたくさんの方に参加していただき、ありがとうございました。火山の実験や、ドローン飛行、町探検など、生徒達が目を輝かせて楽しんでいる姿に、私達は本当にやって良かったと心からそう思いました。子供達が4日間頑張った姿はこのGrowingの記事だけでは伝えきれませんが、どのようなことにチャレンジしたのかをぜひ皆さんにもご覧いただけたらと思います。

まず、トーキングキッズのレッスンに取り入れようと検討中のタブレットを使った単語を覚える教材「解きメキ」をサマースクールで生徒達に体験してもらいました。これが予想以上に好評で、生徒達は「10分」という短い時間の中で集中力を最大限に活かし、熱心に英単語を覚えていました。「4日間で100個」が目標だったので、単語リストを配布し、家でも覚えてくるように言うとはほぼ全員がサマースクールから帰ったその晩に親子で復習してくれていたようです。そして結果はこちらです。

#### 「解きメキ」英単語マスター上位者

- 1位 120 錦織 聡
- 2位 90 大塚妃夏
- 2位 90 福井琉斗
- 4位 80 本津友花



それからリーディングの勉強として、『Finding Dory』(幼稚園児は『Brown bear, brown bear, what do you see?』)を辞書で分からない単語を調べながら読んでいきました。映画で見たことがある生徒は、Dory has a trouble with her memory.という文章で、memoryの意味を辞典で見つけると、「そうや、ドリーは忘れん坊やからいつも困ってた」とtroubleの意味も推測できました。また、トーキングキッズ生はHow many? (いくつ?)という表現をすでに学んでいますが、本の中でhow to get home (家の帰り方)という表現を知ったとき、同じ単語でも、1つ単語(この場合はto)がくっつくだけで全然意味が違ってくることに驚き、このように辞書で単語を調べながら英語の本を読むことにも興味をもったようでした。

メインレッスンの間にアイスブレイカー(緊張を取り除くためのゲーム)をするのですが、これがとても緊張感があるもので、生徒達は1列に並び、外国人講師の質問に即答できなければ、後ろに再び並ばなければなりません。即答できたら列から抜けることができます。即答できなければ「time out! Go back!」と直ちに言われるので小さい子は泣くのではないかと少し心配でしたが、「何としても答えなくては!」という気持ちの方が大きいようで小さい子も必死な様子でした。私達が思っている以上に子供達は強いです。



今回開催したサマースクールのテーマは「Challenge! ~I can do it!!」でした。私達人間は、新しいことにチャレンジするのはとても気が引けるのですが、子供達は全く真逆でチャレンジすることを恐れず、「やってみよう」という好奇心が本当に旺盛です。その好奇心こそが、英語を学ぶ楽しさを知る最大の武器です。たくさんチャレンジの中でも一番のチャレンジはマイクを使って皆の前で発表する「自己紹介」だったと思います。生徒達は照れ笑いをしながらも、「恥ずかしい」という気持ちと戦い、大きな声で4日間練習してきた自己紹介をやっていたのけました。最後のアンケートでは、全員が「めっちゃがんばった」または「がんばった」に〇をつけていました。自分のがんばりを認め、「自分がんばった」と言えることはとても素晴らしいことだと思います。

この4日間で、トーキングキッズ生も、トーキングキッズ生でない生徒達も、何か一皮むけたように英語学習に対する意欲が変わってきたことが分かります。サマースクールの時間が終了しても外国人の先生から離れなかったり、タブレットの単語学習を残ってやって帰ったり、辞書を買ってもらって他の英語の本も読んでみたいと言う生徒もいました。

今後も様々なイベントを企画し、子供達が英語に親しみきっかけ作りや、これからの英語学習の土台作りができるように私達講師も頭と体をフル回転させて取り組んでいきたいと思います。

